

公開研究室一覧及び配置図

1階


食生命科学科

地域総合農学科 農業科学コース

地域総合農学科 地域共生コース

遺伝子実験施設403
植物病理学(農業科学)
(担当:古谷)

細菌がどのようにして植物に病気を引き起こすのか、微生物を利用して病害を抑えられないかについて研究しています。気軽に研究室をのぞきにきてください。



遺伝子実験施設

食堂

売店

こぶし会館

展示 中庭
応用動物行動学(食生命)
(担当:安江)

☀️オープンキャンパス当日が晴天の場合、午後にはヤギがいます



総合案内

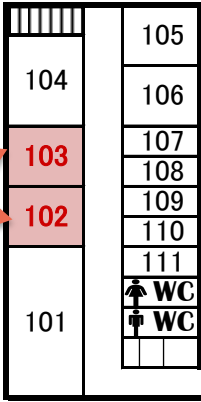
講義棟

図書館

受付

102・103
生物制御化学(食生命)
(担当:戸嶋・長谷川)

生物由来の低分子生理活性物質(有機化合物)を対象として、化学合成の手法と分析機器類を駆使した研究を行っています。




研究棟入口

(関連)2階、235研究室

特殊実験棟

125
景観整備学(地域共生)
(担当:高瀬)

人口減少や人々の価値観が多様化する社会において「どのように風景を楽しむことや、自然に親しむための緑のマネジメントを実現させていくか」という研究をしています。




203
 地圏生態化学
 (食生命)
 (担当:西澤)

畑や水田、湖沼などの多様な環境に生息する微生物を対象に研究を行っています。これらの微生物の機能を解明し、環境保全や農業に役立てることを目指します。

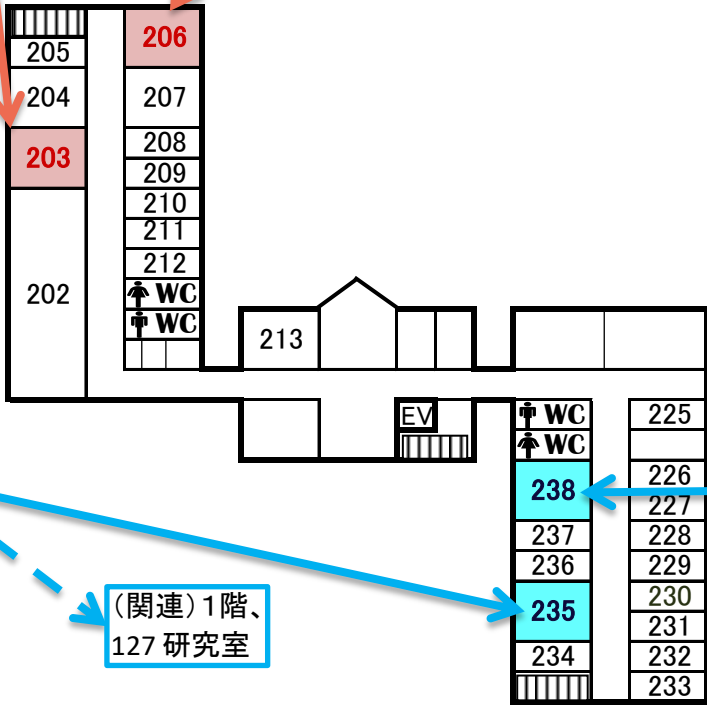
206
 化学生態学(食生命)
 (担当:鈴木 義人)

昆虫によるゴール(虫えい)形成現象を主な実験材料として、植物ホルモンに関する研究を行っています。また、植物に含まれる有用成分の探索も行っています。



235
 水環境再生工学(地域共生)
 (担当:黒田・吉田・前田)

国内や海外の灌漑・排水の水環境再生に関し、水質の汚濁原因解明と浄化対策、生態系の改善、水資源の有効利用などの研究を現地調査やコンピュータモデルを用いて研究しています。



(関連)1階、
 127 研究室

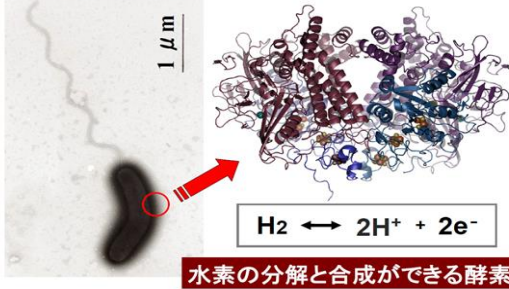
238
 農地環境工学(地域共生)
 (担当:西脇)

環境保全と持続的農業のために、土壌中での水や養分、化学物質などの移動を研究しています。ポスターや簡易実験等の展示もありますのでぜひいらして下さい。

304
分子微生物工学(食生命)
(担当:西原)

水素酸化細菌の機能を利用して水素の合成や電力への変換、水素と炭酸ガスを原料とした有用炭素資源の生産につながる研究をしています。

水素を酸化(分解)するバクテリア



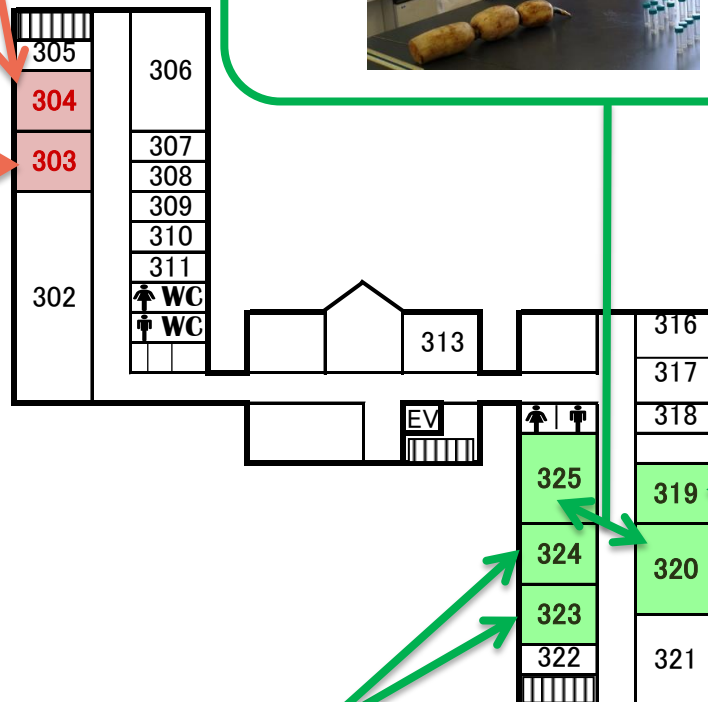
320・325
園芸学(農業科学)
(担当:井上・望月)

野菜や果物など、園芸作物の生産と利用に役立つ情報を得るため、生理・遺伝学的なアプローチで研究に取り組んでいます。農業科学コースについての質問にもお答えしますので、気軽にお立ち寄り下さい。



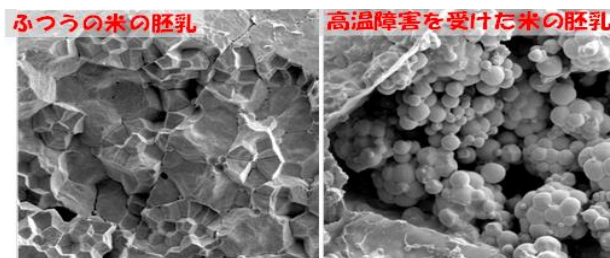
303
食品生化学(食生命)
(担当:長南)

コエンザイムAという補酵素は生体内炭素代謝と密接に関係しています。この物質の細胞内動態を解析し、代謝調節機構の解明や有用物質生産への応用を目指しています。



319・323・324
作物学(農業科学)
(担当:浅木)

イネやサツマイモ、スイートソルガムなどの作物を扱い、品質・収量の向上を目指した研究や電子顕微鏡を使った形態学的な構造解析などを行っています。



4階 その1

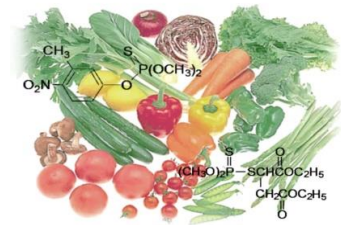
407
分子生物化学(食生命)
(担当:小島)

ダイズの環境応答・ストレス耐性に関わる機能未知遺伝子の研究を通じて、環境ストレスに強い新機能植物の開発を目指しています。



406
食品安全分析学(食生命)
(担当:鎗田)

食の安全・安心の向上を目指し、食品中に含まれる有害化学物質を”より迅速に”、”より安全に”、”より正確に”分析する方法の開発に取り組んでいます。



404
食品分子機能学(食生命)
(担当:上妻)

アピオス等の食品素材中からの生体調節機能性(血圧低下作用、ガン細胞増殖抑制活性等)成分の分離や生理活性タンパク質の応用に関する研究を行っています。



	409
408	410
407	411
406	412
	413
	414
405	415
	416
404	417
403	↑ WC
	↑ WC

	422
	423
	424
402	
	↑ ↑
434	
433	425
432	426
	427
431	428
430	
	429

実験

403
微生物生態学(食生命)
(担当:成澤)

植物と共生する菌類(エンドファイト)の生態を研究しています。エンドファイトを活かした作物生産や環境問題の解決が目標です。

当日はクイズ大会を開催します。全問正解者には賞品を用意しています！



402
食品生化学(食生命)
(担当:白岩)

大豆と菊芋に含まれる栄養、感覚および生体調節機能に関係している成分の構造と機能を明らかにすることによって、美味しく体に良い食材の開発を目指しています。



様々な食品の材料となる大豆種子



様々な薬理機能が期待される菊芋の塊茎(可食部)

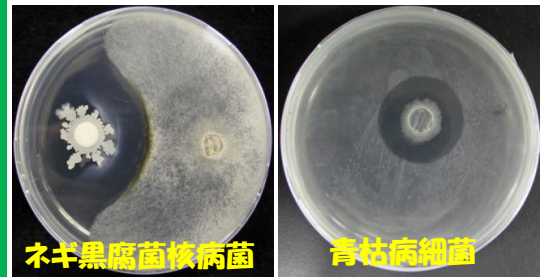
4階 その2

428・431

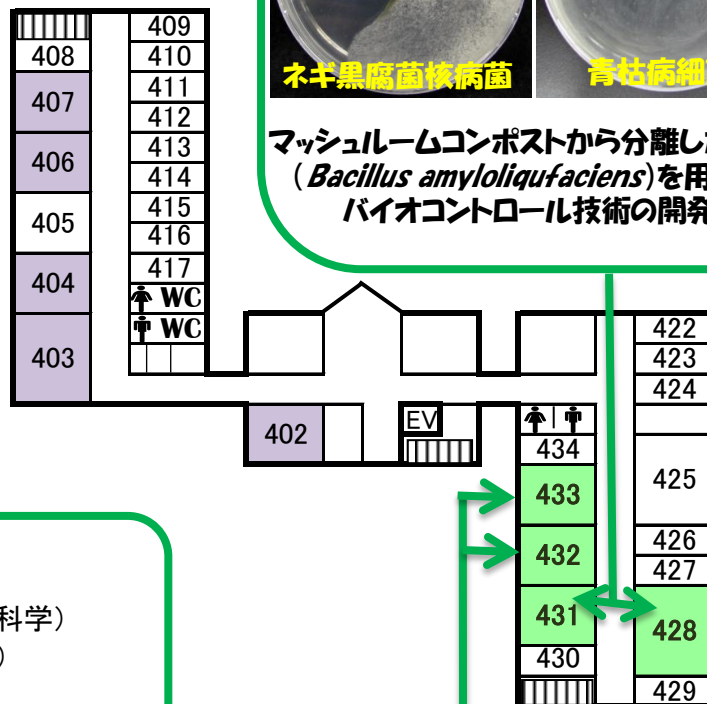
植物病理学(農業科学)

(担当:中島雅己)

植物の病気を防ぐために病原菌の弱点、植物の抵抗力を見つけ出す研究や納豆菌などの力を借りた安全な防除法の開発に挑戦中です。



マッシュルームコンポストから分離した細菌 (*Bacillus amyloliquifaciens*)を用いた バイオコントロール技術の開発



432・433

応用動物昆虫学(農業科学)

(担当:北嶋・菊田)

植物寄生性ダニ類(ハダニ)や食品害虫の分類、生態、防除に関する研究を行っています。生きているハダニや多数の昆虫標本も展示しています。是非見学に来て下さい。

研究室では多数のハダニを展示中(50種以上)



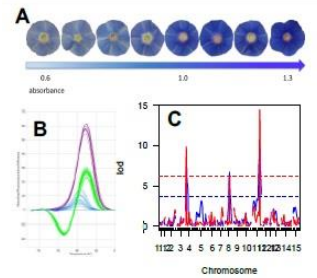
5階 その1

実験

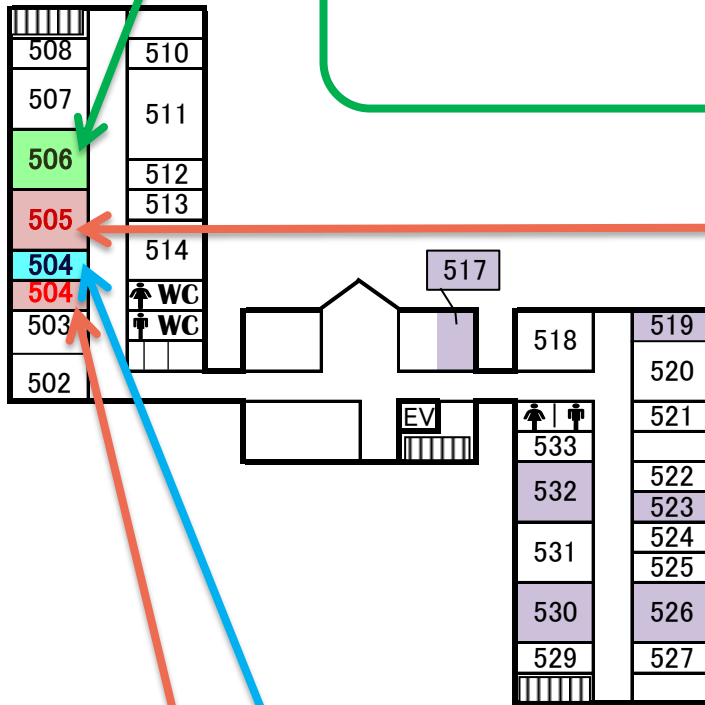
506

植物遺伝育種学(農業科学)
(担当: 田附・久保山)

植物の品種改良に役立つ
技術開発や塩や糖飢餓な
どのストレスに対する植物
の反応の研究をしています。



A: アサガオ花色の濃さの分離
B: DNAマーカー, C: 遺伝子の検出



実験

505

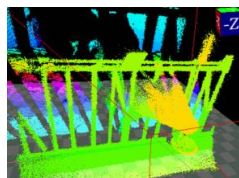
分子微生物学(食生命)
(担当: 久留主)

遺伝子組換え技術に用いるプラスミドの安定
遺伝機構、遺伝子の老化の原因となるDNAの
酸化損傷機構の解明について研究しています。
公開実験も行うので興味があったら是非来て
ください。

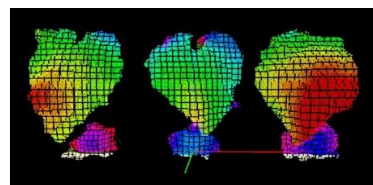
504

農業生産システム工学【**地域共生**】(担当: 岡山)
飼料資源科学【**食生命**】(担当: 豊田)

我々は農学部で扱う研究対象を3Dデジタル化することに取り組んでいます。その一つの取組みであるVRを体験していただけますので、ぜひお越しください。



3次元カメラを用いた牛の行動解析

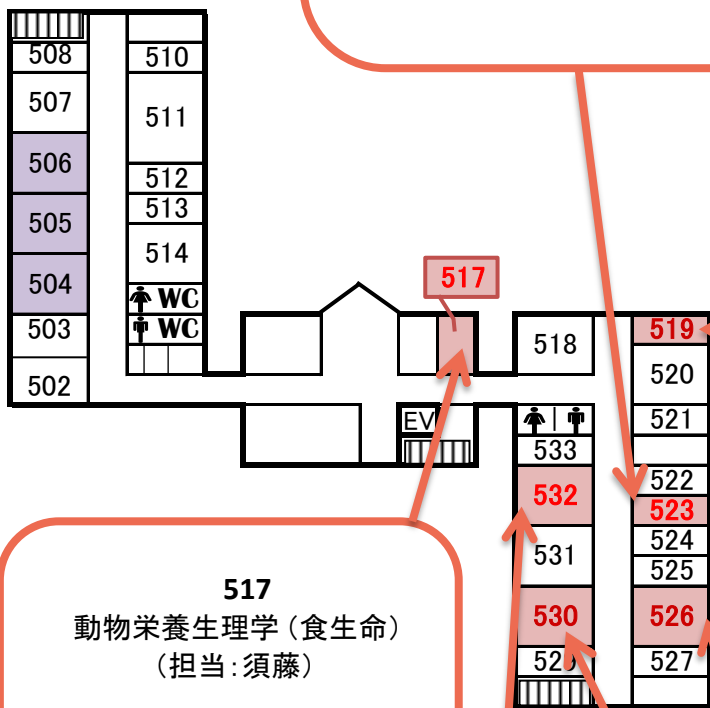
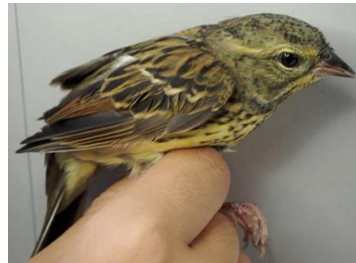


3次元カメラを用いたインゲンマメ葉の調位運

5階 その2

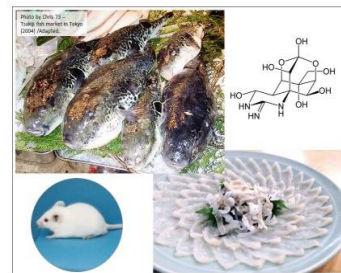
523 動物保健衛生学(食生命) (担当:上塚)

動物の暮らしと健康、そして病気の予防について研究しています。卒論では野鳥が保有するウェルシュ菌や腸内細菌について調べています。



519 食品衛生学(食生命) (担当:鈴木 穂高)

食の安全を確保するために、食中毒の原因となる細菌や毒についての研究をしています。フグ毒など魚貝毒の毒性評価についての研究に特色があります。

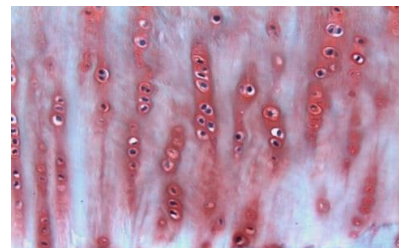


517 動物栄養生理学(食生命) (担当:須藤)

牛の成長や泌乳を調節する生理機能が、ストレスによってどのような影響を受けるのかを調べています(残念ながら、研究室に牛はおりませんが...)

526・530 動物機能形態学(食生命) (担当:中島弘美)

動物の体のつくりと働きを研究しています。一緒に顕微鏡を覗いて、動物の組織・細胞を観察してみませんか！



軟骨細胞とグリコサミノグリカン(サフラニン-O染色)

展示

532 応用動物行動学(食生命) (担当:安江)

家畜の行動に合わせた適切で、人にとっても便利な飼育管理方法を確立することを目的とする研究室です。雨でなければ、午後には中庭のヤギ展示場へお越しください！

605・606

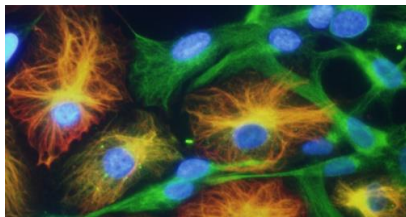
分子遺伝学(食生命)
(担当:朝山・中平)

光合成生物の力を借りて、有用なモノ造りを進めています。例えば、「藻によるバイオ燃料や色素の生産」、「植物を使った食べるワクチンや光る植物」が挙げられます。



603
動物細胞工学(食生命)
(担当:金澤)

哺乳類の精巣での減数分裂の仕組みや乳腺の器官形成の分子機構を調べています。可愛いマウスや珍しい細胞をお見せします。



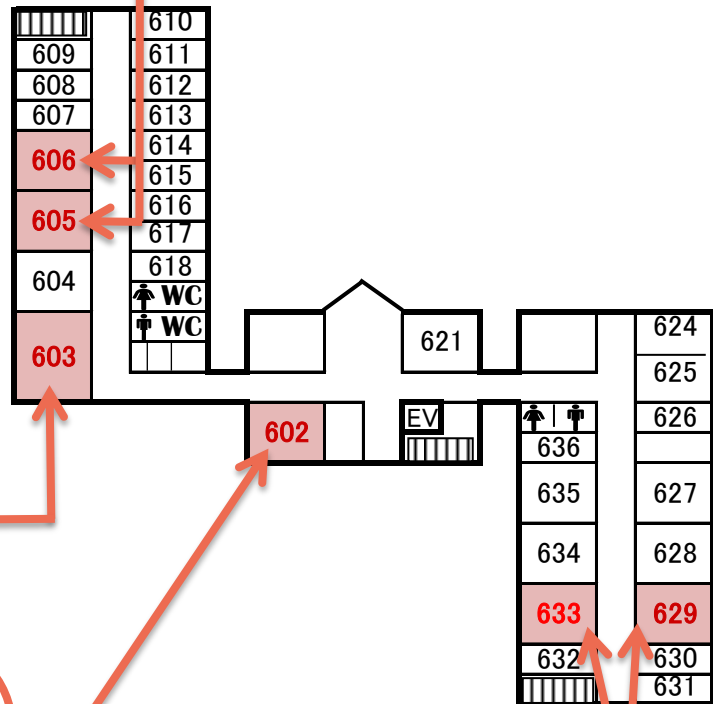
602
動物細胞工学(食生命)
(担当:大久保)

動物や培養細胞を使って、成長や生殖を調節するホルモンの研究をしています。当日はいろいろな培養細胞を観察できますよ。



629・633
畜産物科学(食生命)
(担当:小川)

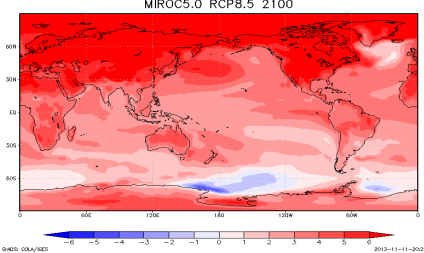
当研究室では、動物の健康に影響を及ぼす機能性素材の給与効果及び畜産物の品質評価法、畜産加工技術の開発を行っています。興味ある方はぜひお越しください。



7階 その1

707
 農業気象・情報学(地域共生)
 (担当:増富)


地球温暖化が農作物に及ぼす影響をコンピュータシミュレーションや気候予測を用いて定量的に評価する研究を行っています。



実験

719
 地盤工学(地域共生)
 (担当:毛利)

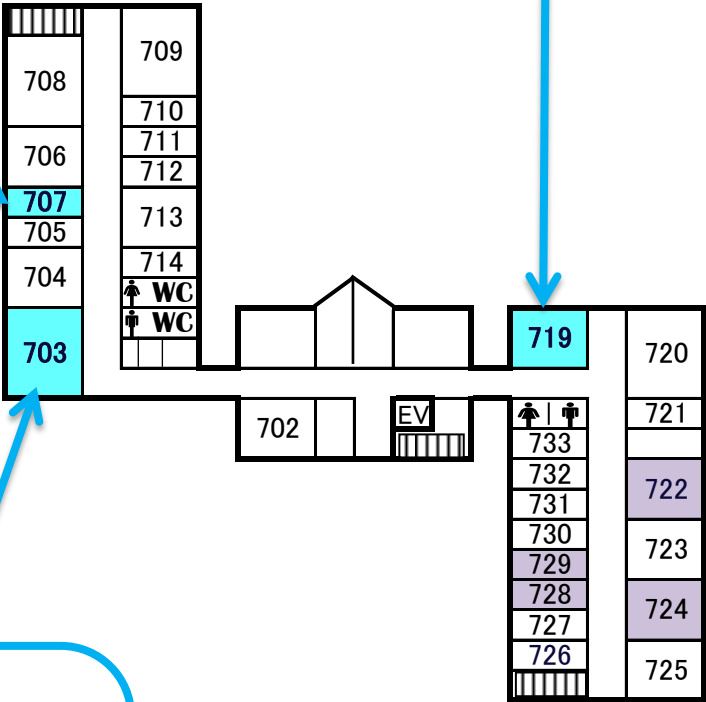
地震や豪雨などによる農業土木施設の自然災害防止に関する研究をしています。ため池やパイプライン、斜面などが崩壊するメカニズムを実験と数値解析で解明して、その具体的な補強方法を開発します。



2011年東北地方太平洋沖地震で決壊する大規模ため池

703
 農業メディアシステム学(地域共生)
 (担当:木下)

地域の問題や世界の問題に対して地理・GISをキーワードに研究をしています。学生の研究テーマでは、地域の身近な問題に対し、その原因や解決方法について取り組んでいます。



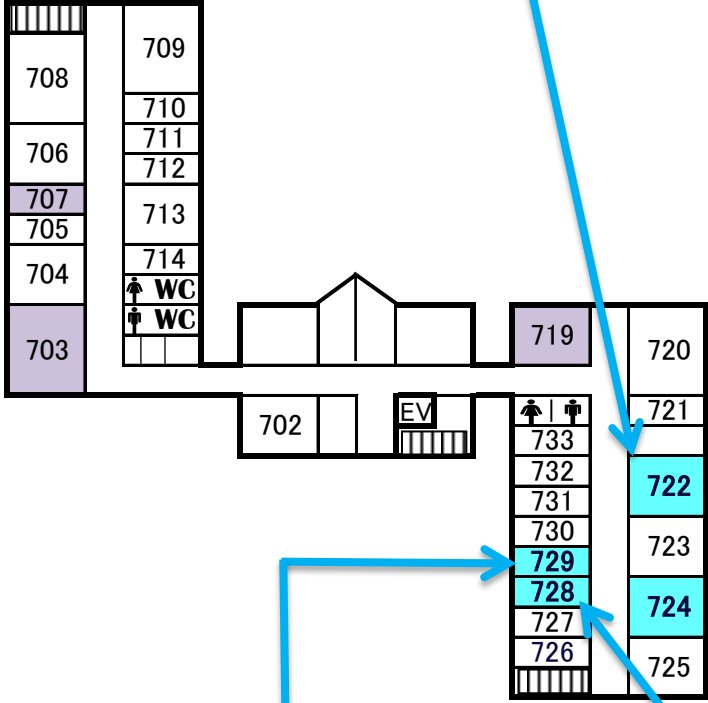
7階 その2

722
 生命系経済学(地域共生)
 (担当:内田・伊丹)

サステナビリティ(持続可能性)について考える研究室です。新しい農業の技術が環境や経済にどのような効果や影響を与えているかを調べています。

724
 農政学(地域共生)
 (担当:西川)

農政学研究室の研究・教育は、農業経営や関係機関に対するフィールドワークを通じて、農業政策の課題と展望を明らかにすることです。



729
 農産物流通学(地域共生)
 (担当:池田)

アジアの農産物流通やアグリビジネスについて紹介します。成長著しいアジアに興味がある方や、アグリビジネスに興味がある方は是非お越しください。

728
 食料情報学(地域共生)
 (担当:長澤)

食料を生産したり、消費したりする中で生じる様々な問題をコンピュータシミュレーションを用いて考えています。


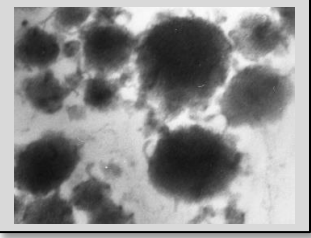
フードイノベーション棟

フードイノベーション棟304
畜産物科学(食生命)
(担当:宮口)

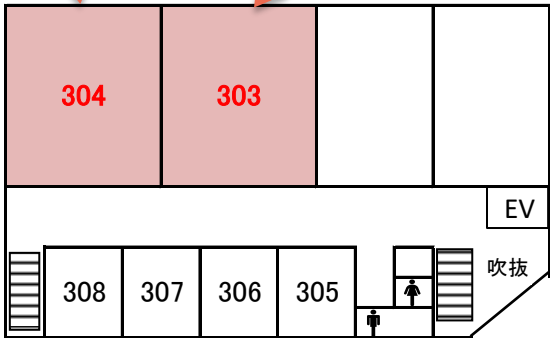
高齢化社会に向けた健康にやさしい食肉製品の開発や食品の加工残さなど未利用資源を用いた機能性飼料の開発並びにその効果(食肉の生産性など)について調べています。

フードイノベーション棟303
食品保蔵学(食生命)
(担当:中村)

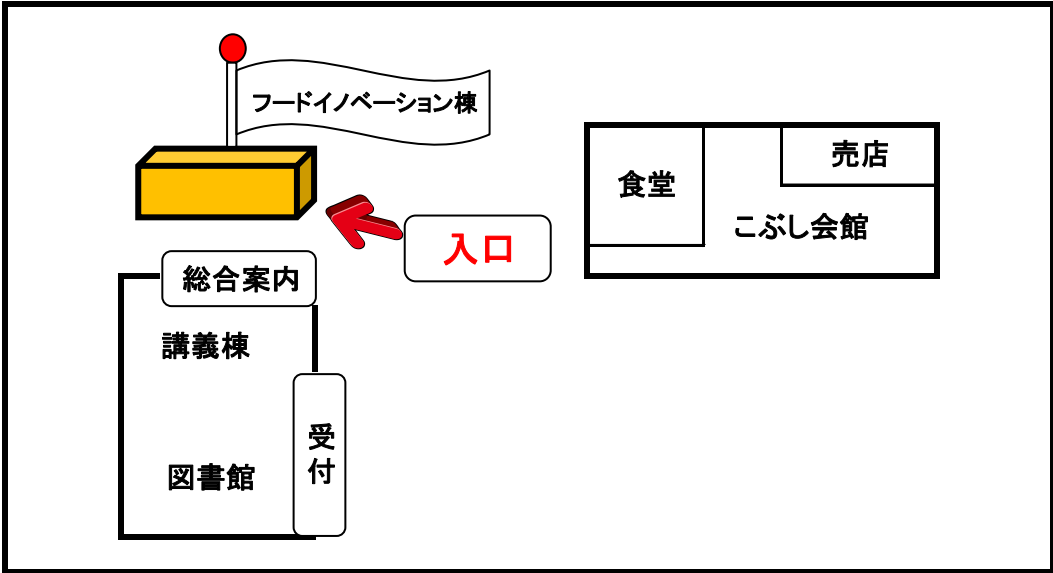
安全・安心で美味しい加工食品の開発に不可欠な安定剤(多糖類)を独自に開発し、構造と機能の相関解析を進めています。

飲むヨーグルト
大豆多糖類で安定化した乳蛋白質粒子(電顕像)



フードイノベーション棟 3階



国際フィールド農学センター

国際フィールド農学センター209
 農業安全管理学(食生命)
 (担当:小針)

家畜や動物園動物を対象として、動物行動学の手法を用いて、飼育管理上のストレス問題の解決やアニマルウェルフェアの向上に関する研究に取り組んでいます。

国際フィールド農学センター208
 国際フィールド農学センター
 (地域共生)
 (担当:小松崎)

環境にやさしい農業や有機農業のなかで、カバークロップの利用が注目されています。カバークロップを上手に利用して、環境と調和する新しい作物栽培システムをご紹介します。



国際フィールド農学センター210と
 ビニールハウスと学生研究室
 農業生産技術学(農業科学)
 (担当:佐藤)

農薬や化学肥料の過剰な使用による環境負荷や薬剤耐性菌発生問題の対策として、植物免疫の活性化による病害抵抗性の誘導技術や点滴かん水による施肥の防御方法を研究しています。海外留学に関する相談も歓迎します。

